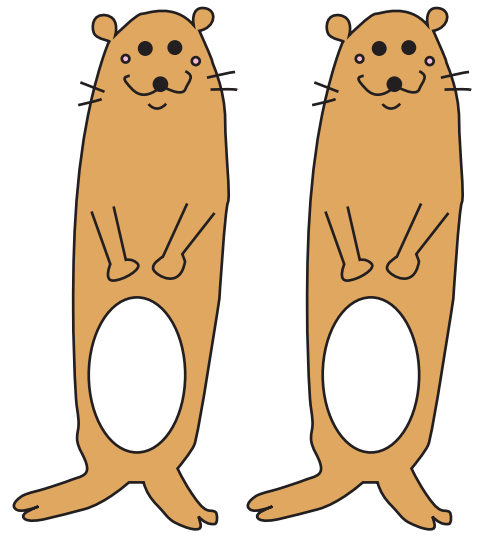


カワウソのいたずら



むかしむかし、町を流れる川に何匹ものカワウソがすんでいて、よく人をだましていました。

ある夜ふけの事、若い侍が町はずれの道を歩いていると、横丁から女の人が出てきて、前を歩いていきました。次に、五つばかりの男の子が現れると、足早に女の人を追いかけたのです。そして女の人に追いつくと、女の方は男の子の手をひっぱって、歩きはじめました。

しばらくいくと女の方は突然立ちどまり、「まったく！ お前のような役たたずは、じゃまになるだけだ！」と、男の子をかかえあげると、そのまま堀の中へ投げこんでしまったのです。若い侍は腰の刀に手をかけて、走っていきました。

「子どもに何をするのだ！」すると女の方はふりかえって、にやりと笑いました。その姿は、あごの下から胸までが、まっ白な毛でおおわれていたのです。「おのれ、化け物！」

侍は手をかけた刀を抜いて、斬りかかりました。しかし女の化け物は、そのまま闇の中に消えて、大きな水音が聞こえました。

若い侍が堀の中をのぞきこむと、二匹のカワウソが水の中から顔を出して、にやりと笑ったということです。